

## 聡太へ〜おじいさんから孫への手紙〜

聡ちゃんへ

まだ、小さなあなたに理解できないかもしれないとは思いますが、どうしても、この事実とそこに生きる人たちのことを伝えたいと思います、手紙を書きました。今、わからなくてもいい。5年後、10年後でもいい、何度も読み返してもらいたいのです。

決してあってはならないことですが、今でも生まれたところや住んでいる場所で差別されている人たちがいます。その人たちの命をおびやかす、心を傷つける差別落書きがありました。

その落書きを見た中には、あなたと同じくらいの子どももいました。

その子たちの瞳はみるみるうちにくもっていき、ポロポロと涙をこぼし、その背中はどんどん丸く小さく縮こまっていくように見えました。親たちの目にも涙とともに深い悲しみの色がにじんできていました。親たちの手は、ふるえながらもわが子の肩に手をかけたり、さすってあげたり、抱きしめてあげたりしていました。この目の前の親子を、そして、その地域の人たちを悲しみのどん底に突き落とす差別

てやる。」と、わたしたち大人に訴えかけているようでした。でもね、落書きは消えても悲しみやくやしきはなくなっていなかったんでしょね。また、涙がこぼれていました。(おじいちゃんも)

わたしたち大人の力が足らなくて、残念ながら差別やいじめがない世の中ではありません。でも、多くの人たちは、決してあきらめたり投げ出したりしません。差別をなくすことがどんなにすばらしいことか、人を大切にすることがどれほどすてきなことか。何年か後にでも「おじいちゃん、カッコいい。」って、聡ちゃんに言ってもらえるようにね…。

12月10日 春夫おじいちゃんより

### 春夫おじいさんの想いを

春夫さん(仮名)は、昨年11月に行われた差別落書きを消す学習会、12月の消す作業にも参加しました。

春夫さんはその中で、これまでの自分をもう一度見つめなおし、「壁の落書きは消されたが、心の中の落書きは、決して消えてはいない。」「こんな差別は、絶対に許さない。」「この思いを絶対に伝えなければいけないと考えました。そして、まず孫の聡太

落書きが心から憎いと

思いました。なぜなら、

あの親子が、わたしの愛する娘であり孫の聡ちゃんだとしたらと思つくと、胸が引きちぎられそうになったからです。

この差別落書きは、すぐには消しませんでした。それは、差別をなくすために多くの人に知ってもらいたかったからです。

その地域の親と子は泣いてばかりではありませんでした。このひどい差別落書きへの怒りや悲しみ、人を本当に大切にすることとはどんなことかを多くの人たちに訴えていきました。こんなにもすごい親と子どもたちの近くにいると、わたしも勇気や元気が出てくるんです。

つい先日、この親子たちによって黒マジックで書きなぐられた差別落書きは消されました。その姿も、わたしはそばで見えていました。自分たちを差別する言葉をキツとにらみつけた後、力をこめて消す姿は、「こんな差別に負けるものか。絶対に差別をなくし



さんへ、差別落書きをされた人たちの想いや自分の気持ちを伝え、共に人を大切にできる人になって欲しいと自分の願いを託しています。まだ、小さい孫の聡太さんが春夫さんの手紙を理解できたかどうかはわかりません。しかし、おじいちゃんの人を想う豊かな心は、しっかり伝わったと思います。

とてもすてきなおじいちゃんです。

### 資料(差別落書きが消されるまで)

2019年		2018年		
12月	11月	9月	4月	2月
親子が集まって、落書きが消される。	落書きを消すにあたっての親子学習会が行われる。	市の公共施設に「死ぬ」 <sup>*</sup> 「エタ、ヒニン」と書かれた部差別落書きが発見される。 市や各学校などにおいて研修会が開かれる。 ※研修は、2019年まで市外を含めて各所で行われる。	地元で行われる子どもまつりで、子どもたちや保護者が差別落書きのおかしさを訴える。	

\*エタ・ヒニンという言葉は、江戸時代の身分制社会の中で、差別されていた人たちに対し使われた差別語です。これらの言葉は、1871年、明治政府によって廃止する通達が出され現在に至っています。今回は啓発のため、あえて使用しています。